



## ・はじめに

12月議会の活動報告です。9月議会直前に私自身が濃厚接触者になったこともあり、9月議会では活動報告を発行しなかったため、半年ぶりの活動報告となります。

8月中旬に同居家族が感染。私自身はPCR検査“陰性”でしたが10日間の自宅待機。9月議会の一般質問通告に間に合わず、一般質問を行うことができませんでした。（紙による通告しか認められていないため。デジタル化の壁がこんなところにも・・・）

## 【一般質問①】稲城市におけるウォーカブル推進都市の取り組みについて

質問：稲城市は国交省が募集した「ウォーカブル推進都市」の一つとして登録されている。この制度はまちなかににぎわいを創出することを目指し、街路の広場化や民地のオープンスペース化、公園内へのカフェ・売店設置などに官民一体となって取り組むことを推進するものである。

この基礎となっている「ウォーカブル推進法」の概要とそれに対する市の考えは？

（回答）社会の多様化に対応し、「居心地がよく歩きたくなる」空間創出により魅力的なまちづくりを進めていくものである。国交省は沿道と路上の一体的な利活用を推進しているが、市としては安全な道路整備など、ハード整備が重要と考えている。

質問：「ウォーカブル推進都市」の定義と、それを実現するために何が重要と考えているか？

（回答）「居心地がよく歩きたくなるまちなか」という考え方に賛同した自治体のことであり、市は公園や遊歩道の整備により市内回遊性を高めるが、その実現に繋がると認識している。

質問：「ウォーカブル推進都市」に賛同した理由や実績は？市の長期総合計画との関係は？

（回答）都市基盤整備や観光などの稲城市の取り組みやジャイアンツタウンやよみうりランド等の地元企業の取り組みが、そのコンセプトに合っていた。情報収集が主な目的であり具体的な実績は無い。市のこれまでの計画と整合を図ることで長期総合計画には反映されている。ジャイアンツやよみうりランド等との関係づくりは既に取り組み済み。

### ※稲城市が国交省の比較的新しい取り組み

「ウォーカブル推進都市」に名を連ねていることが分かったため、大きな期待を抱きつつ、質問をしたのですが、結果はほぼゼロ回答でした。（市内のインフラ整備が道半ばの稲城市の実状を考えれば仕方ないことは理解していますが）

質問：「ウォーカブル推進法」には様々な支援制度があるが、その採用に向けての市の考えは？

（回答）民間まちづくり団体を都市再生推進法人に指定することについては、京王よみうりランド駅南側エリアのみ研究していく。まちなかウォーカブル

ル地域(1km程度のエリアを重点区域とすること)については考えていない。「一体型ウォーカブル事業」(市の沿道整備と民地のオープン化等を一体的に行うこと)については、沿道の土地所有者との合意形成が課題である。公園への看板設置等はこの制度での導入は考えていない。

質問：ウォーカブル推進都市の特徴としてWEDO (Walkable:歩きたくなる、Eye Level:歩行者の目線の高さである1階を重視、Diversity:様々な人が様々な用途で活用している、Open:開かれている、We do.)が提唱されているが、例えば若葉台地区は歩道も広く最初のW(Walkable)は実現できているが、沿道は大規模店舗の壁が続いており、E, D, Oの実現はできていないと感じるが、市の考えは？ZEBRA Coffeeのようなオープンな施設が増えるよう、もう少し頑張ってもらいたいと考えるがどうか？

（回答）稲城市の都市計画マスタープランでは徒歩500m圏の自立的生活圏を目指し取り組んでおり、若葉台地区も「居心地が良く歩きたくなるまちなか」は実現されている。これまでの生活サービス施設や商業施設の誘導などに取り組んできた。今後については、地域ニーズと事業者の事業採算性等を鑑み、注視していく。

※地元の若葉台地区の街並みを見ていて、歩道や公園も整備され、確かに歩きやすい環境は整備されていますが、大規模商業施設ばかりで「歩いて楽しい状況には程遠い」というのが実感であり、人が集い・交流する取り組み(マルシェとかオープンカフェとか)に力を入れるべきと考えています。

質問：「ウォーカブル推進都市」が掲げる「官民一体となってまちづくりに取り組むこと」への市の考えは？

（回答）稲城市の第五次長期総合計画でも「シビックプライド」を持つ市民の力が生きるように取り組むことが掲げられており、自分達が住む街に主体的に関わっていけるよう施策展開していく。

※ウォーカブル関連事業の推進については、市に頼るのは難しそうです。市民主体の活動(マルシェを企画したり、夏祭りを盛り上げたり、など)を実践していくことで、まちのにぎわいづくりに取り組んでいこうと思います。他、避難所運営資機材の質問等

# 地域の防災力向上について（自身の地域での実践を踏まえて）

## 稲城市の考え方（稲城市地域防災計画「第3章 市民と地域の防災力向上」より）

### 1. 自助による市民の防災力向上

- ・転倒・落下防止の備え、耐震改修、食糧等の備蓄、安否情報を集める方法の準備などを推進
- ・市民一人ひとりが「自らが防災の担い手」として自覚を高め、防災意識の啓発に取り組む
- ・発災時は、まず自身と家族の身を守り、出火を防止する。避難所では自発的に活動する

### 2. 地域による共助の推進（自主防災組織）

- ・「自主防災組織リーダー」の育成により、自主防災組織の活性化に取り組む
- ・共助における初期消火・救出救助・応急救護に関する実践的かつ効果的な防災訓練の実施
- ・発災時は、自らの身の安全を確保するとともに地域防災力の中核である消防団と連携し、初期消火、救出救助、応急救護活動、避難所設営・運営等を行う

### 3. 消防団の活動体制の充実（共助～公助）

- ・消防団は、行政と自主防災組織・住民をつなぐ存在、公助を担いかつ地域の共助活動の中心となる
- ・同時多発的な火災発生に備え、消防団による活動が的確かつ迅速に行われるように、消防団の定員充足等を推進、体制の充実、地域住民・消防署等との連携訓練、資機材等の整備を推進
- ・発災時は、災害の初期対応、消防署と連携した消火活動・救出救助活動・避難誘導等を行う

## （私が考える課題①）個人と自主防災組織の間をつなぐ仕組みが必要

住民一人ひとりが家具転倒防止や食糧備蓄などの自助を啓発していくことは大事ですが、それにどれだけ一生懸命取り組んでも「次は地域全体のためにも頑張ろう」という方はなかなか現れないと感じています。

稲城市や自主防災組織による防災訓練を通じて防災意識が高まったとしても、地域全体の初期消火活動や救出救助活動、避難所設営・運営活動といった共助活動には、なかなかつながりません。隣近所の数軒単位で初期消火・救出救助を行える体制・資機材を整備したり、避難所は避難者自身による自主運営を基本とする等、共助活動を細分化・仕組み化して、個人でも関わりやすくする取り組みが必要だと考えます。

## （私が考える課題②）地域と消防団とのより一層の連携強化が必要

自主防災組織の活動で感じるのは“装備やスキルの限界”です。消火器で消せる範囲を超えたら逃げるしかありませんし、年1回の防災訓練で応急手当を習ってもなかなか身に付きません。その一方で、消防団の経験があれば、ポンプ車などの本格的な資機材を使って消火活動ができますし、応急手当指導員の有資格者も多いので、応急手当（指導も）ができます。地域から多くの消防団員を送り出せば、それだけ地域に防災力の高い人材が増えるということですし、消防団としても地域に通じた団員が増えれば、地域の実情への理解も深まります。消防団については、町火消から続く伝統と、戦後の特別職公務員という建付けとの間で、古い慣習に対する否定的な意見もありますが、防災に必要な装備・スキルを持った“地域防災の要”として、地域とより積極的に関わっていくことが、より一層の地域防災力向上につながると考えます。

## お詫びと訂正（市議会体制図の所属政党について）

7月の活動報告の中で各議員の所属党派について、以下のとおり訂正いたします。

北浜けんいち議員 無所属→自民党

坂田たけふみ議員 無所属→自民党

池田英司議員 無所属→自民党

角田政信議員 無所属→自民党

川村あや議員 無所属→自民党

梶浦みさこ議員 国民民主党→無所属

前回市議選の選挙公報で「無所属」となっていたので、任期中はその意向を尊重する必要があると考えて「無所属」と記載していました。また他議員の党派変更に注意を払っていなかったことも私の反省点です。

この度、臨時議会当時の所属党派名で記載すべきとのご指摘をいただきましたので、過剰な忖度であったと受け止め、訂正させていただきます。関係者の皆様には重ねてお詫び申し上げます。

## 【編集後記】

私の若葉台地区の印象は、ウォーカブルではあるが、人の交流・にぎわいは感じにくい、というものです。駅前から公園に向けてのiプラザふれあいロードをただ目的地向かうだけの通路ではなく、歩いていて楽しい、そこに留まって過ごしたくなる、そんな空間にできればいいな、と考えています。シビックプライドを持つ市民主体の取り組みに期待しつつ、私自身も全力で取り組んでいきます。

編集・発行：「中田中を応援する会」

〒206-0824

稲城市若葉台3-1-1若葉台ワルツの杜F401  
(携帯) 090-3596-5118

(メール) ataru.nakata@gmail.com

(ホームページ) <http://ataru-nakata.com>  
(Facebook)

<http://facebook.com/ataru.nakata>

(Twitter) @ataru3